

「国語科における『読みの力』を深める言語活動の充実」

行田市教育委員会・行田市立桜ヶ丘小学校

研究の概要

1 主題設定の理由

本校の学校教育目標は、「考える子（かしこく） 助け合う子（なかよく） たくましい子（元気よく）」である。そこで、「自分の思いや考えを伝え合うことができる児童の育成」を研究主題とし、国語科の学習を通して、これからの変化の激しい時代を乗り越え、未来を切り開いていく「生きる力」を育成し、学校教育目標の具現化を図りたいと考えた。心身ともに健やかで、自ら学び自ら考える資質能力を養うとともに、人と人とのかかわりの中で、自分のよさに気づき、そのよさを伸ばし活かす教育を推進している。

本校児童は、物語文や説明文の読み取りや人の話の内容の聞き取りを正確にできない児童が多く、また語彙が乏しいため自分の考えや思いを文章や言葉で表現することが苦手である。さらに、ゲーム等に費やす時間が多い反面、読書する時間が全国・県の平均に比べて少ないということが課題である。

そこで、「読みの力」を深めていく研究を進め、読み取った内容をもとに、自分の考えや思いを伝え合うことができる児童の育成を図りたいと考えた。

本校の考える「読みの力」とは、次のような力である。

- (1) 事物の仕組みを説明した文章から読み取り、分かったことや考えたことを話し合ったり、文章にまとめたりする力
- (2) 物語を読んだり話を聞いたりして、内容や感想などを伝え合ったり、表現したりする力
- (3) 情報を得て、分かったことや感じたこと（読み取った力）を活用する力

2 目指す児童像と研究仮説

目指す児童像	低学年	自分の思いや考えをもち、友達に伝えることができる児童
	中学年	自分の思いや考えをもち、互いに伝え合える児童
	高学年	友達の思いや考えから自分の意見を深めることができる児童

【研究仮説】資料の読み取りや学び合いの指導を工夫すれば、自分の思いや考えを互いに伝え合う力が高まるだろう。

3 研究の内容（手立て）

(1) 〈学習指導面〉

①目的意識や課題意識をもつための単元計画の工夫

- ・1時間の学習の流れに「資料の読み取り」と、「読み取ったことを考えたり伝え合ったりする」時間を意図的に位置づける。

②単元を貫く言語活動の工夫

- ・指導のねらいを確実に実現するために単元を貫いた言語活動を位置づける。
- ・ワークシートや作品を仕上げることを通して、言語活動のまとめをする。

③自分の学びを実感できる評価の工夫

- ・振り返りカードに、ねらいを意識した記述を促し、学習内容の定着を図る。

3	2	1
「この物語は、 主人公の成長が テーマで、 登場人物の 関係性が よく描かれています。」	「この物語は、 主人公の成長が テーマで、 登場人物の 関係性が よく描かれています。」	「この物語は、 主人公の成長が テーマで、 登場人物の 関係性が よく描かれています。」

評価の工夫

(2)〈学習環境面〉

①言語環境の充実を図る工夫

- ・階段にことわざや四字熟語を掲示する。
- ・季節の俳句や詩のコーナーを設ける。



階段の様子

②読書活動の充実を図る工夫

- ・読書の木、並行読書コーナー、先生のおすすめの本コーナーの設置
- ・朝読書やボランティアによる読み聞かせの取組
- ・国語教室での学校応援団との百人一首やカルタ遊びの取組



詩の広場



百人一首の様子

成果と課題

成果

- (1) 今年度の埼玉県学力・学習状況調査の結果より、6年生の学力の伸び幅は、県平均と同程度であった。また、5年生の学力の伸び幅は、平均よりも大きいことがわかった。4年生は県平均レベルを上回っていることがわかった。
- (2) 物語を読んだり話を聞いたりして、内容や感想などを伝え合ったり、表現したりする力に伸びがみられた。また、言語の知識・理解・技能の面でも、昨年度より伸びがみられた。
- (3) 国語室で行う学習応援団とのかるたや百人一首、四字熟語やことわざの掲示物等言語環境の充実を図り、言語への興味・関心を高めることができた。また、「先生のおすすめの本紹介コーナー」や「読書の木」「並行読書コーナー」等の設置により、読書への意欲が高まり、読書量が増えた。

課題

- (1) 事物の仕組みを説明した文章から読み取り、分かったことや考えたことを話し合ったり、文章にまとめたりする力を確実に伸ばしていく必要がある。
- (2) 読書量を増やす取組を行っているが、個人差が大きい。今後もよい本と出会える働きかけを続け、全児童の読書の質の向上と読書量を増やしていくことに努めていく。